

筑波大学附属病院認知症疾患医療センター第25回研修会・講演会

【開催報告】

2025年10月31日(金)(ハイブリッド形式)

医療・介護・福祉・行政など認知症に関わる専門職の皆様を対象に「第25回研修会・講演会」を水戸プラザホテルにて開催いたしました。昨年に続き、会場参加とオンライン配信を併用したハイブリッド形式での実施となりました。

当日は、筑波大学附属病院 認知症疾患医療センター 新井哲明部長による開会挨拶の後、京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 木下彩栄教授より「生活機能障害から考える認知症の早期発見と生活支援」と題したご講演をいただきました。

昨今急速に進む家電のデジタル化が高齢者に与える影響や、日常生活の観察から得られる認知症早期発見のヒントについて、貴重な研究成果をご紹介いただきました。生活機能障害の視点から認知症を捉えることで、より実践的な支援の在り方を考える機会となりました。

研修会後のアンケートでは「エアコンやスマートフォンの操作が困難な患者が多く、現場で戸惑うことも多かったがようやく理解できた」「“当事者参画”に必要な配慮について考える機会となった」「社会全体での啓発の重要性を再認識した」など、とても前向きなご意見を多数頂戴しております。今回も大変多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

次回研修会は2026年2月に開催予定です。詳細が決まり次第、当センターホームページでもご案内いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

